別紙記録

市民との意見交換会報告書

■実施日　　令和５年１２月１２日（火）午前１０時００分～午前１１時５０分
■実施場所　　庁舎５階　第１委員会室
■議題　　加東市の男女共同参画をさらに進めるために
■出席者　　＜議会＞
　藤尾委員長、別府副委員長、長谷川委員、松本委員、大久保委員、
　中村委員、髙瀬議長
＜なないろ＞
　黒﨑みどり（会長）、中江艶子（会計）、前田友子、中村和子

■発言要旨
（「なないろ」の活動紹介）
【出席者】
　なないろは、令和３年度に加東市が実施した「加東ウィメンズリーダー塾」を受講したメンバーで結成しており、現在は９名で活動している。市内で様々な活動をする女性や、これから何か活動したいと考えている女性が繋がり、地域で活躍する女性をもっと増やしたいとの思いから始まった、女性リーダー育成研修会である。
　ジェンダー平等を啓発しようとしたときに、社高校の生徒を対象として、ジェンダー意識調査を実施すると、誤った知識を持つ子が多くいたことから、大人だけでなく若者に対する啓発も必要だと考え、調査内容をまとめた啓発冊子を作成した。
　その他には、スキルアップのための研修会の開催や、他の地域で開催される研修にも参加している。今年度は、ジェンダーについて楽しみながら学び、考える機会を設けようと、ジェンダー平等すごろくの作成に取り組んでいる。家庭、職場、地域、それぞれの場においてジェンダーに気づき、暮らしを見つめ直してほしい。完成した後は、様々な場所で活用できるようにと考えている。
　このような活動が単年度で終わるのではなく、これからどんどん活動して、活動に関わる人数も増やしていきたいと考えている。

（意見交換）
【藤尾委員長】
　加東市の男女共同参画をさらに進めるために、ご意見やご要望があれば伺いたい。

【出席者】

大事なのは人が集まって繋がり合うこと。加東市でもいろいろなグループが様々な活動をされているが、どんな活動をされているかわからない。なないろもなかなか周知できていない。集うことで繋がり合うが、活動するための拠点がないことが加東市の弱点だと思う。

【出席者】

今回この場を設けることができたのも、まちづくり活動団体の交流会で、横の繋がりができたことがきっかけだった。いろいろな団体が活動されているが、個々の活動であって、どういう活動をされているのかがわからなかった。やはり集まるところ、拠点となるところこそ、一番大事だということを強く感じた。

【出席者】

活動拠点というのはどこかに行けばそこで出会える、つまり市民活動をされているグループが集えたり、いろいろなところでいろいろなことをしているような活動拠点があれば、そこで偶然会ったり、違う活動の人と繋がることができたり、幅も広がっていく。自分たちが目的を持って集まって相談しても、少人数で広がりが見えないところもあるので、何かわくわくするような出会いがあって、横の繋がりが広がっていくような活動拠点が是非あればいいなと思っている。

【出席者】

拠点があって交流が身近にあることが大事。今はメンバーが集まることができる日を決めて、会議室等を探し回って、遠くの場所まで行かないといけないこともあり、近場に拠点というものを本当に作っていただきたい、それが一番の願いである。

【松本委員】

拠点がない問題は本当に痛切な問題だと思う。例えばコミセンの１室など、今拠点にしたいと考えるところは具体的にあるか。

【出席者】

場所として成功しているのは、大型商業施設に隣接している場所。近隣の加西市は「アスティアかさい」内に男女共同参画センターがあり、いつも賑わっている。センターは人が集まる場所であって、廃校のようなポツンとした場所では駄目。加東市では、ｈａｌＫ（ハルク）がもう少し充実した形であれば狙い目だったのかなと個人的に思う。

【藤尾委員長】

Ｂｉｏの２階にイベントホールがあり、そこで活動されている「まちの拠点づくりコンソーシアム」という組織がまちの拠点としての位置づけである。まちの拠点なので、本来の事業目的は市民、市民団体の支援ということが含まれている。

他の施設の利用の考えはないか。公共施設では使用料の減免がある公民館になるが、他には例えばやしろ国際学習塾があり、そこの会議室は利用しやすいのではないか。

また西脇市はＭｉｒａｉｅ内に男女共同参画センターがある。議会でも意見が出ていることであるが、加東市でもセンターを設置すべきか、また設置すればどう変わって行くか、ご意見を伺いたい。

【出席者】

使用料の事も考えないといけない。そして、大事なのは社会教育の施設をどうするかという事だと思う。活動の場を提供する、学びの機会を提供する、人材養成をする、調査研究を行う、という４つの柱がある。人権協働課が実施している生涯学習研修会において、この度ようやく人材養成という部分に踏み込んでくれて、ウィメンズリーダー塾ができたが、何かバラバラでビジョンがない。

市民の力はこれからものすごく大事なこと。予算が少なくなり人口減になっていく中、行政に何ができるのか。市民が育つ事が自治体の力だと思う。市民は集まって、人の話を聞いて、学んで、育つ、つまり人が人を育てる。やはり活動拠点があるということが市民力に繋がると思う。

【出席者】

加東市は３町が合併したが、未だに旧町意識があり方向性が３つに分かれていると感じている。合併してずいぶん経つので、加東市をより良くしようということで一体となり、同じ方向を向いてそのような拠点を作るのであれば、今後の加東市を見据えた投資として高くないものだと思う。

議員の方々も加東市の未来の５年後、１０年後のビジョンをそれぞれお持ちだと思うので聞かせて頂きたい。

【藤尾委員長】

今、先行投資というご意見があったが、市民活動の拠点ので、思い切ってＢｉｏの近くに活動拠点センターの設立を考えるのも、１つの手立てかと思う。

現在、加東市は小中一貫校３校を建設しているので、その事業が一段落しないと考えにくいと思うが、そういうことも視野に入れていってはどうかというご提言であったと認識しておく。

【別府副委員長】

拠点が必要だという事は強く理解できた。

活動されている中で、他市との繋がりや、情報交換もされているということで、加東市の中で男女共同参画を広げていくために、センター設立以外に必要なことはあるか。また、ジェンダーフリーの意識が進んでいないと感じることの方が強いのかどうかお聞きしたい。さらにも

う１点、作成された冊子について、世代によって感じ方があると思うが、若い世代の意識との違いで何か感じられた事があれば伺いたい。

【出席者】

調査をしてみて本当に驚いた事だが、「男性も家事育児能力を付けないといけない」と思っている男子高校生の割合がものすごく上がっている。女子もだが「パートナーと一緒に家事・育児をやりたい」という意見が９割を超えている。子供たちの意識は変わってきているのでそれをしっかり理解していただきたい。

【出席者】

地区の中で女性が前に立つことが、「女のくせに」ということが見え隠れしている。そのようなことを若い世代には教えないために冊子等を作成して、次は冊子をどのように活用するかを検討している。しかし、市町や地区等において、まだまだ受け入れてもらえないような壁があると感じており、これらを取り除いてほしいという思いが強くある。

【出席者】

キーワードは「男性育休」だと思う。育休取得率が上がっていくかすごく注目している。

国では男性育休の取得率向上に力を入れている。加東市役所の育休取得率は７７．６％と非常に高く、これを前面に押し出して採用活動をした方が良い。

育休で子供の世話をすることでスキルも身につくし、考え方も変わってくると思う。それが少子化を止める事に繋がるというのが国の方針である。

【藤尾委員長】

加東市議会では、議員が育児のため、必要な期間の休みを取得することができる。子育て中で、子連れで議会出席するというような事例はまだないが、若い世代の方にもぜひ議員になっていただきたいと考えている。また、女性議員を増やしていきたいという議論もある。

【別府副委員長】

女性議員を増やすことや、地区の女性役員のハードルが高いという話が出たが、女性のリーダーシップなどの意識を高めるためにどのような取組をされているのか。

【出席者】

北播磨５市１町の男女共同参画の事務局は、みんな気持ちをひとつにして女性議員を増やそうとしている大変珍しい地域である。ウィメンズリーダー同士も、年２回交流会と称して研修会をするが、そうやって刺激し合い意識のアップデートができており、リーダーシップを身につけることはある程度できる。しかし、議員になるのは別。特に若い世代にとってはお金の問題がある。また、夫婦間の問題としては夫が一番ネックで、議員になることを止めらることが多く、応援してもらうのに時間がかかる。

行政としては、この講座をしたからこうなると考るのだが、人の心はそんなに変わらないし、だからせめて３年はやりましょうという形でやっているが難しいことは事実。

北播磨５市１町はウィメンズリーダー達が議員の話を聞くチャンスがたくさんある。男性社会という壁は、本当に女性でないと感じられないと思う。だからこそ男性は自分たちが壁であると自覚してほしい。

議員になるための講座は本当に簡単なことではない。ただ女性議会はものすごく効果がある。

【藤尾委員長】

男性は、壁になっている意識もないし、女性を差別している意識はないと思うが、そこをどうくみ取れるのかということを考えていかなければいけないと思う。

【松本委員】

私は夫が応援してくれて今、議員をできている状況であるが、男性社会の壁を毎日感じている。加東市は封建的だなと感じていて、男性に女性差別の意識がない、他市に比べて遅れているとまず感じてほしい。女性議員の数がそれを物語っている。先ほど話があった、地区内において「女のくせに」というのが見え隠れすることは実際にある。私の世代は男を立ててなんぼの意識がある。私が出て意見を言うと「もうちょっと控えめで、１期議員だから」と言われることがあるが、それだと後の方がついて来れないと思っている。子供が小さいときに議員になれたかというとそんな意識もなかったので、今、子育て中の方にこそ議員になっていただいて声をあげていただければ、もっと加東市がよくなるのではと思い、実は毎日スカウトをしている。お金が無くても周りの協力で議員になられている方はたくさんいる。女性が住みやすいということは男性も住みやすいということなので、是非、一緒に力を合わせてそういう加東市を作っていきたいので、今後もお話を聞かせていただけたら嬉しい。

【出席者】

議長はじめ、他の議員の方々に男女共同参画、ジェンダー平等についてどのような考えをお持ちか聞きたい。

【藤尾委員長】

合併当初、男女共同参画推進委員をさせていただいていた頃は、様々な場面おいて女性の割合が少ないためそれをどう増やしていくかということや、女性が権利を勝ち取るための議論がなされていて、そういうイメージをずっと持っていた。

議員になってからも少し勉強をしたが、ある時、ある先生から「男性は働いて女性は家事という話がよくあるが、一番犠牲になっているのは男性で、男性の自殺率の方がはるかに高い。男は働いて女は家事という概念を背負わされていることが、男性にとっても不幸なんだ。」という話を聞いた時に、女性だけのための議論ではないんだということを感じた。男性だから女

性だからというところを解き放って、みんなで住みよい社会を作るということが重要であると思っている。

【長谷川委員】

拠点の話について確認したいが、社地域にはこれから周辺が開発されていくｈａｌＫ（ハルク）、東条地域にはミナクル、滝野地域には各公民館等があり、もう一か所、総合的な拠点があればいいのかと思う。これから空いてくる小学校とかを利用すればお金がかからないと思うが、例えば福田小学校に拠点ができたとするとどう思われるのか。賑やかな所でないと駄目といったイメージなのか。

【出席者】

大きい建物を建ててほしいとかではない。ただいつでもそこへ行ける、ここの部屋に行けば何かができる、というのを１つ作ってほしい。例えば、公民館等で子育てをやっている、そうすると誰でも行ける状態ではない。誰でも行きやすいところを１つでもいいから作っていただけたら、それから段々と発展していけたらいいなと考えている。

【出席者】

大事なのはビジョンだと思う。加東市の人口がどう変化していって、またどこへ集中するのかを考えないといけない。それは滝野地域か社地域だと思う。商業施設にはみんな足を運ぶ。そこへ人が流れる構図がある。もう建物を建てられないのであればＢｉｏの２階に設置すれば良いと思う。ただし、まちの拠点づくりコンソーシアムがある場所を、市民総合センターと言われても誰も利用しない。社地域ではＢｉｏ、滝野地域ならば播磨中央公園が近くにある滝野図書館が良いと思う。人口と人がどう流動するかを考えていないと、建設しても閑古鳥が鳴いている状況になる。

【長谷川委員】

市内３地域を盛り上げなければいけない。ある地域にこだわってしまうと市として盛り上がらない。

男女共同参画で一番気になっているのは、男性が一番できないのは、子供を産めないという事である。女性が男女共同参画といって活躍していき、子育てをする男性は何もできないというイメージが自分にはある。それをどのようにクリアしたら男女共同参画がうまくいくのかなという思いが常にある。確かに女性が活動すればよくなっていく。しかし、だんだん男性の意欲がなくなっていくというか、男性が主夫をしないといけない形が多くなるのではないかと思う。それでも良いのだが子供を産めない男性がそうなってくると、子供を産まない人が増えて、逆に少子化が進むと思われる。

【出席者】

申し訳ないが、３０代と４０代の男性の考え方は違い、そこには考え方の断層がある。３０代以下の男性は子育てをしたい。でも４０代以上の男性は、それは女性の仕事だと言っている。少子化になっていく理由は、男性が子育てをしないからである。若い世代で結婚したくない、出産したくない人の割合が３０％～４０％上がっている。理由は、子供を育てる自信がないからだと言う。そのため、結婚する相手には年収より家事・育児ができる男性がトップに出てくる、それぐらい意識が変わってきている。はっきり言って少子化は男性が育児をすれば、ある程度緩むのでなはいかと思っている。平成２７年の厚労省のデータで、全く子育てをしない家庭と、休日に６時間子育てに関わっている家庭で、第二子が産まれる数値が９倍近くになる。このデータをもって国が施策を変えたのである。国は男性の育児休暇を進めるため、従業員に育児休暇を取得させる企業に対して補助金を出しており、企業は２週間から１か月の育児休暇を取らせるようになっていくであろう。そうすると、出生率は少し上がってくる。女性が働くから子供が減っているのではない。子育てにはお金がかかるから女性も働かないと子供を産めない。経済的にも男女共に働かずして子どもは産めない。

【出席者】

まず、女性は弱きものとは思っていないが、女性の活動が理解されていないとあった。私は４０代の議員だが、同級生には議員の仕事を全く理解してもらえない。議員だから何をしているのか、月に１、２回、市役所に行けば給料がもらえるのだろうといった話ばかり。

女性は弱きものという感覚が無いので、男女共同参画は全体の課題として取り組んでいくのはよいのだが、個人的には取り組む意味を理解できないのが正直なところである。

【藤尾委員長】

おそらく、女性を下に見ている意識が本当にないと思っている中でも何かあると思う。それが私もまだわかっているわけではない。

以前、男女共同参画に関する所管事務調査において、今の世の中で「男性が優位だと感じるか」「女性が優位と感じるか」というアンケート調査の内容があったが、今この委員会の中で同じ質問をすると、大久保委員・中村委員は「平等」、松本委員は「圧倒的に男性優位」、長谷川委員は「平等か女性優位」、別府副委員長は「男性優位」、私は「平等」、議長は「平等であるが強いて言えば女性」という答えをいただいた。アンケート調査の結果では、若い世代でも男性優位との答えが多かった。男性が優位であれば平等であるように是正すればよいが、我々は平等であると思っている集団なので、その辺りが非常に……。もう一つは、議会の男性議員は、男性優位とされる色々な壁を突破されたすごいエネルギーをお持ちの女性議員と話をするので、壁を突破できない方の声を汲み取れる機会が少ないと思ったりする。

【高瀬議長】

以前、男女共同参画の副座長をしている時、地区・自治会からも女性区長が出て来てくれないのかと言っていたが、加東市は農業が盛んな市でもあることから、農地や田んぼのことを主に夫に任せている女性が多く、そこに参画されるのは無理であるということであったが、今新しい地区・自治会においては女性の理事が５人程いて、良いことだなと思う。

また議員の話があったが、宝塚市は女性議員の方が多くなっており、どのようになっていくか非常に注目している。

【出席者】

男女共同参画を推進するのは、女性をより優位にしようとか大事にしようという思いは全くないと思う。女性を盛り上げようというように受け止められるかもしれないが、そうではなくて、男性も収入が少なかったり失業して自殺率が多いということで、男女共同参画をすることによって、男性も助けて、いろいろなことを思っている女性も助け、お互いを助けるのが男女共同参画であって、そもそも女性だけ優遇しろとかじゃないと思っている。

私たちが勉強し始めていることを、一からではなくゼロから勉強していただく事がスタートじゃないかと思う。女性がどうこう、男性がどうこうじゃない、それぞれの能力を生かす社会を築いていくことが重要で、これからの子供たちにそんな教育をしていくことが大事だと思う。

【出席者】

基本的に男女共同参画が目指すものというのが、男性と女性がフィフティー・フィフティーになろうというのではなくて、例えば外国人、障害者、高齢者、女性など、これまで主体者になってこなかった人たちも自分の良さを生かし主体者になろうというのが、ジェンダー平等という考え方である。それはＳＤＧｓの基本だと思っている。家事・育児は女性だ、働くのは男性だ、その構図を崩さない限りジェンダー平等なんてありえない。

子どもは、昔はたくさん産むことが経済的な価値だったのが、より質高く子供の数を少なくしてお金をかけて育てるという精神的な価値に変わってきている。各自治体で意識調査をやってもらっているが、いまだに男の子には経済力・たくましさを求め女性には優しさ・思いやりを求める中、女の子に家事能力を求める数値が断トツに減った。４０代のお母さんたちが「今時男は家事・育児ができなかったら結婚できない。」と言っていると思う。そこはすごく変わってきたことかなと思っている。

【藤尾委員長】

議員の中で女性の割合について話したこともあるが、どうお考えか。

【出席者】
　そもそも男と女がいるが、子供を産むのは女だけである。体質的にも考え方もやはり違う。今日のような会議でも半分ずついろいろな考えが出る。いろいろな考え方、柔軟性を持って考えることが会議には理想的で、強制的に男女を半々にするのも一つの良い方法だと思う。

【出席者】
　クオータ制を取り入れた国では、ジェンダー・ギャップ指数が早く良くなったが、取り入れていない日本は少しずつしか良くなっていない。加東市でも思い切って取り入れたらどうか。やり方はいくらでもあって、実績ができたらそれが形になっていくと思う。

【藤尾委員長】
　以前、国が女性議員を増やしましょうというパンフレットを送付してきたことがあった。しかし、国の政党がやっていなくて、ものすごく違和感があった。
【出席者】
　あれは政治団体と自治体に義務化したものである。行政が政治に女性を登用していくためのセミナーをしなければならず、登用していく人材養成をしなさいということが、実は行政にも来ていて、ありがたいことに予算がついている。
【藤尾委員長】
　議員に限らずいろいろな形でリーダーを育てる取組を、市としてやって行くべきとの話をしたが、皆様から何か意見はないか。
【出席者】
　学園構想で今から学校が３つになる。学校教育がなぜ社会教育にくっついていかないのかと思っている。
　少子化で子供が減っている。子供たちには縦の繋がりがなかなか無い。兄弟も少ない。そして、学校は隔離されている。例えば学校を地域へ開放して、おじいちゃんやおばあちゃんがいつでも見に来ることができる、また集まることができるようにしたらどうか。そういうことで子供たちは安定していくと思う。高齢者が多いというのが加東市の良さだと思っている。
　柔軟な考え方を増やしていくことが高齢者の生きがいにもなるし、いろいろな場所でそうすれば良いと思う。
【藤尾委員長】
　東条学園のコミュニティ・スクールは社会教育との一体化をしようとしていたのだが、地域に開かれた学校にしようとしていた時にコロナ禍になり開かれなかったが、その当初の理念は様々な協力をいただいてやっていた思いはあるが、やはりもっと推進していくべきだと思う。

【出席者】

開かれた学校にするには校長先生の研修が必要である。学校評議員は昔からの歴史があるが、学校はいつでもシャッターを下ろす空気感がある。そのため、校長先生が目指すべきコミュニティ・スクールとはどういったものか、脳内アップデートしていただき、学校が閉ざされた存在にならにようにしてもらいたいと思う。

【議長】

東条学園では、コミュニティ・スクールの部屋があり、地域を含めたＰＴＣＡによって学校運営協議会をされている。

市内では小中学校が３校になっていくことで、地域の学校という昔の考え方ではなく、いかに地域と学校が連携していくのかということが大事になると思う。

また、最も気にしていることは地域の高齢化が進むことであり、どのように地域社会を支えていくか、行政とも共生しながらやっていかなければならないと考えている。

【出席者】

多可町も男女共同参画センターを設置する計画があると聞いている。そうなると北播磨５市１町の中でセンターがないのは、加東市だけである。建物がなくても、部屋だけでもあれば意識が変わると思う。そうなった場合、行政的な組織としては大きな問題が出てくると思うが。

例えば、横に子育て支援施設がある滝野図書館とかはどうかと思う。

【藤尾委員長】

男女共同参画については、まだかけ離れた部分もあると思うので、委員長として継続して調査していきたいと思う。

以上